

H28年 独学による技術士試験体験記

受験科目 建設部門 道路（道路管理）

はじめに

2回目の受験。昨年は択一問題が失格となったため、択一問題も力に入れながらの受験勉強でした。簡単には合格できないことは分かっているので、とにかく、一步一步前に進もうという感じでした。なので、今年の最低目標は、「択一で60%を超える」というものでした。運が良ければ2次が合格できればいいかなという思いでした。

択一对策

択一の問題対策は過去問。特に、sukiyaki 塾での100本ノックに集中しました。はじめは休みの日などに気軽にやっていた感じでした。記述対策を本格的に始めるようになると、休み時間などの、ちょっとした時間を使って少しずつしていきました。

記述対策

記述対策としては、情報収集です。国土交通省の道路局ホームページの中で、過去に出題されていない分野（施策）を押さえること、また、通勤時には国土交通白書をスマホで音声出力にして聞いていました。また、平成27年4月前後から1年間で発表されたものについては重点的に学習し、過去問についても答案例を参考にすることと、自分で調べてモノにすることを続けていきました。

2次試験

2次試験については、問題がやさしかったこともあり、無事に合格圏内でした。平成27年度試験にも取り上げられていたメンテナンスサイクルの問題が出題されていました。これについては、1年かけて業務と共に学習をしていたので、問題なく書けました。しかし、他の問題については全く自信がないものでした。

結果としては問題2がB評価、問題3がA評価で、全体でA評価となり、2次試験を突破することが出来ました。

口頭試験対策

2次が合格できれば、あとは口頭試験。これだけは突破したいという思いでした。対策を始めた次期は2次試験発表の2週間ほど前、経歴及び小論文の確認から始めました。過去の経歴が読んだだけでは道路と結びつきにくい経歴だったので補足することとしました。

模擬面接を受けるかどうかを考えていたところ、sukiyaki 塾の模擬面接が空いていたの

で、お願いして面接を受けることにしました。その頃はまだ倫理等については勉強していない状況で、経歴、小論文を重点的にしていました。実際に模擬面接では私の問題点が洗い出されてしまい、小論文自体も、「技術士らしい業務」と言えない、「誰もが出来る内容」でもあったので、その部分と、工夫点を再度見つめ直すことにしました。

口頭試験まであとわずかの頃、会社をお願いして模擬面接をしていただきました。そのときに前回の指摘からどのようにして準備をすべきかを教えて頂き、当日に向けて準備をしました。また、倫理については **sukiyaki** 塾のセミナー動画をCDにして、通勤時に聞きました、また、予想質問とその回答例をテキストファイルにしてスマホで聞くと共に、自分でも答えながら話す練習をしました。

口頭試験

前日に上京。ホテルは渋谷近辺に手頃なホテルがなかったので、山手線から少し外れたところで、渋谷駅まで20分くらいのホテルを探して予約していました。会場の下見をして、口頭の最終確認。当日は2時間ほど前に到着して口頭のおさらいとまだ手をつけていない分野をさらっと見ながら時間を過ごしました。

口頭試験では、予想通り、経歴の質問に集中しました。模擬面接での質問が出ましたが、頭を抱えるほどの難しいと言うほどの質問はなく、終始話しやすい雰囲気でした。手応えがあったので、これは間違いないかな？という印象でした。

口頭試験内容

- ・業務経歴について説明して下さい。
(説明) 予定通り
- ・今の業務(現在の会社での業務)の部門は何ですか?
(説明)
- ・業務内容の詳細について3分程度で説明して下さい。
(説明) 予定通り
- ・詳細についての質問
 - ・技術提案した内容について
 - ・業務でのライフサイクルコストについて試験官が疑問に感じた内容についての質問が数問
- ・倫理について、秘密保持の義務について説明して下さい。
(説明)
- ・公益確保の責務と会社の方針が異なる場合はどうしますか?
詳細経歴を例にとって説明
- ・CPDの取り組みについて説明して下さい。

私が取り組んでいる内容を説明

(社内研修では講師をすることもあること、新技術や国土交通省の新しい取り組み(例えばICT)について積極的に受講していることを説明

・会社の技術士制度について説明して下さい。

会社の事情と今後取得したときの抱負も加えて説明

今担当している分野と、受験分野が違っているので、それを納得してもらうための補足も行う。

所要時間は20分。

結果発表

しかし、さまざまなことが頭をよぎり続けたので、残り2週間が、業務も落ち着いてきたこともあり、不安でいっぱいでした。

当日の早朝、合格を確認し、安堵しました。

約1年間の試験は、受験までの勉強期間、発表までの待つ時間、それに通常業務も加わって、精神的にも厳しい期間でした。

反省点

反省点としては、受験科目と経歴が合致していることが分かるように業務経歴票に書くべきでした。また、詳細経歴はもう少し、工夫点(技術士にふさわしいと思われる点)や、技術的な内容を加えていればもう口頭試験や勉強方法がまた違う展開になったかと思いません。